

平成 15 年 2 月 7 日（金）午前 11 時より（30 分間）於：相模宗務支所円蔵寺会場

相模檀信徒協議会新年会講演

「真如外にあらず身を棄てて何か求めん」

本日は、30 分程のお時間を頂きお話をさせて頂きます。どうぞ足をくずして楽な姿勢でお聞き頂ければとおもいます。

先ず本日のこの会は、檀信徒協議会の皆様の新年会ということで、日頃から高野山の行事や地域寺院の活動にご尽力されている方々ばかりにお集まり頂いております。当然この地域の事柄には精通されていると思いますが、昔ほどでは無いにしろ神社仏閣の諸行事には積極的に関わってきた歴史が有ると思います。

一宮の寒川神社をはじめ、二宮という地名が残っているほど氏神様への思い入れも強く、浜降り祭などの盛り上がり大変なものがあるように思います。普段の生活の中にも、辻辻にお祀りされているお地蔵様やお稲荷様が大切にされている様子が伺えます。

私のお預かりしている千手院にも、何軒かの稲荷講での読経とメなわのメを切るお話を、毎年の恒例としてお受けしております。中には、80 年以上前から変わらず同じお膳を作り続けている講中もあり、とても貴重な経験をさせて頂いております。

さて、総本山金剛峯寺の有る高野山も、実を言いますと明神様の祀られている聖地で有ります。「四社明神」といい、丹生都比女様や狩場明神様などがお祀りされていますが、各地から集合しているので「四所明神」とも言われております。

では、何故お大師様は、高野山を嵯峨天皇様にお願ひして頂いたのかと申しますと。当時すでに京都の教王護国寺を預かれておられました。布教や教学の勉強をする場所以外に、心の修行をする修禪の道場を探しておられ、その目的に最適の道場として高野山を選ばれました。

今は、高野山真言宗の総本山として、また国定公園の隣接地として、更には世界遺産への登録を目指す日本の宝として様々な人たちに親しまれておりますが、修行僧の道場として多くの僧侶が全国から集まる大道場であります。

「聖人の世に出こと必ず慈悲によるなり」と言われるように、大乘仏教として多くの人々の利益に叶う祭事を行うためには、個人の努力だけではなく神仏のご加護のもとに事を進めなくてはなりません。

私たちの命は、公の利益のためにいかされてこそ、生まれてきた使命を全うできるのではないのでしょうか。お大師様は、「真如外にあらず身を棄てて何か求めん」と申されました。それは、いったいどうゆうことなのでしょう。

私たちの授かったこの命は、数え切れないぐらいのご先祖様達によって、今の私たちの元へ届けられました。親の因縁によって子供の人生が色づけられるのではなく、私たちの生き方次第で、それまでめんめんと引き継いできた命の継承の是非が問われるのです。

両親や祖父母さらにはご先祖様達が成仏できるかどうかは、ひとえに今生きている私たちが授かったこの命を、いかに生かしていくかにかかっています。仏事の本質はあくまでも過去の回想ではなく、生きている命への応援活動なのです。

合 掌